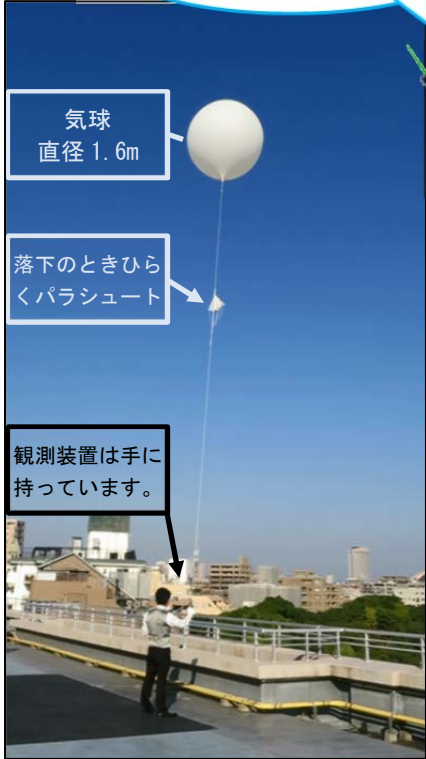


「気球をつかった空の観測」

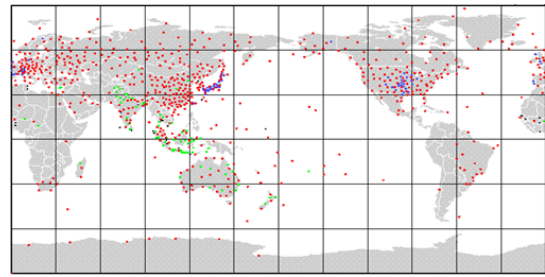
高層気象観測

毎日2回、気球を空へ飛ばしています

気球は、毎日8時30分に飛んでいくよ!



福岡管区気象台の屋上で打ち上げ直前のカウントダウン



高層気象観測の地点(点がついている場所)

これは、「高層気象観測」と呼ばれ、世界標準時の0時と12時にあわせて、日本だけでなく、世界各国の約900か所から同時に気球を飛ばし観測しています。空はつながっています。日本の天気の変化を知るためには、世界中の空の観測が欠かせません。「高層気象観測」のデータは、世界中で利用され、日々の天気予報に役立てられています。

福岡管区気象台では、毎日2回、気球に観測装置をつらぎ飛ばしています。気球は30kmほどの高さまでとびながら空の気温、湿度、風向や風速を観測し、データを地上に向けて送信しています。



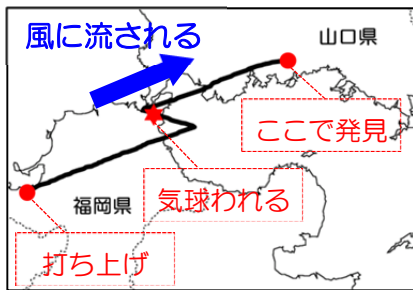
2015年	11月5日	木曜日
平成27年		
福岡管区気象台	〒810-0052	
防災調査課	福岡市中央区大濠 1-2-36	
電話	092-725-3614 (記事) 092-725-3600 (天気相談所)	
メール	fk-kanku@met.kishou.go.jp (ご意見・ご要望はこちらまで)	

山口県防府市の山の中で発見されました! 落下した観測装置

観測装置の白い箱には気象台の電話番号が書いてあります。落下した気球を見つけたら、連絡して下さい。ただし、気球が電線や高い場所などに落ちていたら、無理にとるのは危険です。必ず大人の方を呼びましょう。 ※気球などは環境に配慮したものを使用しています。



展示中の観測機器



観測機器の通ったルート(上から見たイメージ)



発見された場所

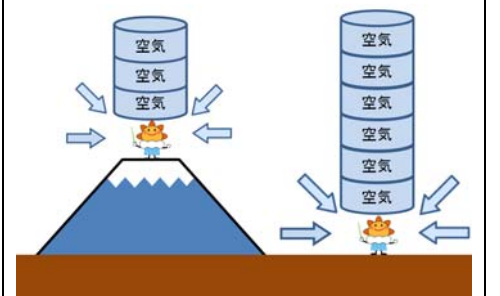
6月13日に飛ばした気球は、上空で観測という仕事を終え、気象台から約120km離れた山口県防府市の山中で発見されました。

「お天気 Q&A」

Q:なぜ上空にいくと気球はふくらむのですか?

A:わたしたちは、普段から目に見えない空気に押されています。この押す力を気圧といいます。

気圧は空気の重さと考えよう

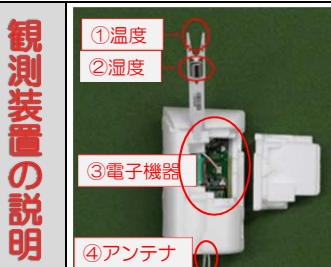


山の上など、高い場所になればなるほど、空気は少なくなっていきます。そのため高いところほど空気が押す力も弱く(気圧が低く)なります。だから、気球はふくらみます。

山にのぼった時、開けてないおかしの袋がふくらんできたから、気圧が下がった合図です。

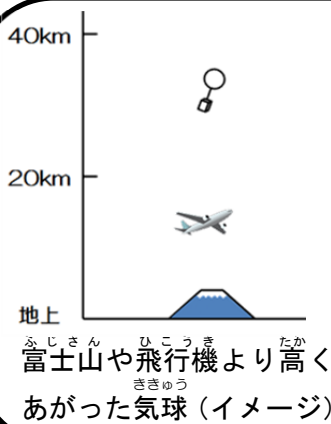
気象情報へのアクセス

パソコン・スマホから	
津波防災ひろめ隊	検索
携帯から	
防災情報	検索



- ①温度センサー・・・空気の温度をはかるところ
- ②湿度センサー・・・空気にふくまれている水蒸気量はかるところ
- ③電子機器・・・自分のいる場所がわかる機能(GPS)がついている
- ④アンテナ・・・データを電波で地上に送るところ

空高くあがった気球はどうなる?



気象台では、じょうぶでのびる気球に空気よりかるい水素ガスを入れてふくらませています。このため気球は、上空30kmほどまでとぶことができます(左の図)。上空にあがるにつれて、もともと直径1.6mくらいだった気球は8mくらいまで大きくなります(右の写真)。最終的には、気球はわけて、パラシュートによってゆっくりと落ちてきます。



製作所にて、気球をふくらました様子